

## 生徒指導にかかわる現状と課題

部長 白鳥 尚夫

### 1 生徒指導の動向

県学校教育の重点を受け、次の3点を具体的な実践の指針として取り組んできた。(1) 生徒指導にかかわる問題行動の未然防止、早期発見、早期対応のための生徒指導体制の強化。(2) 学校間・地域等との連携に基づく指導・支援の展開。(3) 社会性育成を図る「深めよう絆県民運動」の推進。

各地区の学校教育研究会や中学校区等が中心となって、実態を踏まえながらテーマを設定し、特色ある活動が展開された。燕市教育研究会では、小池小学校長熊谷基先生を講師に「生活指導の心得と決め手」の視点から講演会を実施した。他地区でも、大学の教授・准教授、臨床心理士、生徒指導担当の指導主事等を講師として、生徒指導を基盤とした学級づくり、保護者への対応、人間関係づくり、児童虐待の現状と対応、ネットいじめ対応などの研修会が開催された。そこでは、具体的な事例を基に、「子供が本来もっている力を信じ、子供の力で問題解決できるような支援体制の確立」、「外部機関との連携の重要性」、「問題行動の早期発見、即時対応のノウハウ修得」等、明日からの実践に結びつく内容が協議された。

中1ギャップを解消し、絆を深めようと「いじめ根絶スクール集会」も多くの中学校区で取り組まれている。糸魚川市立大和川小学校区では、小学校6年全児童と中学校全生徒、保護者、地域住民が参加する集会を、児童・生徒中心の実行委員会方式で運営している。各地区で取り組まれている主な内容は、各学校のいじめ根絶の取組紹介、いじめ防止の創作劇、講師を招いての体験談、いじめ根絶標語やポスター作成、グループ討議、ゲーム、いじめ根絶宣言などであった。上越市立柿崎小学校では、上越教育大学教職大学院の学校支援プロジェクトを受け、院生と担任が連携してSST、SGE等を「絆タイム」で計画的に実施した。その結果、学級や学年内でのいじめや問題行動などが激減し、人間関係が大きく改善した。

上越市では、今年度よりいじめ・不登校等の問題解決を支援する「JAST(上越安心サポートチーム)」が新設された。生徒指導担当指導主事、カウンセラー、ソーシャルワーカー、必要に応じて弁護士等で構成され、学校だけでは困難な問題解決に大きな力を発揮している。

### 2 生徒指導の課題

携帯電話等の普及に伴い、子供たちのネットワークが広がり、問題行動も広域化しつつある。また、児童虐待も増加傾向にある。そのような状況のなかで、関係機関とどう連携し、諸問題の早期発見、早期対応に努めていくのか。

生徒指導を特別支援教育の視点からも見つめ直し、9年間を見通しながら児童生徒に自己有用感や社会性をどう育てていくのか。